「富山アートウェイ」のご提案

歴史・水辺・緑が織りなす共創と賑わいの拠点

富山県はデザイン振興事業が盛んであり、また世界５大ポスター展の１つと言われ、世界的に評価の高い「世界ポスタートリエンナーレ・トヤマ」を開催するなど、デザインやアートの素養が高い地域です。そこで、アートを中心に歴史、水辺、緑を活かし、県庁周辺エリアを共創と賑わいの拠点とすることをご提案します。

①幸せあふれる ウェルビーイングな場所

歴史・水辺・緑を活かして
まちの中心における憩いと愉しみの空間を形成し、
来街者・従業者・居住者の
ウェルビーイングを向上させるエリア

②まちがつながり、一体となる

まちなかの連続性・回遊性を高めて、
まちをシームレスにつなぐとともに、
周辺街区に賑わいの好循環を
もたらすエリア

③関係人口を増やし 県全域を活性化させる

公有地を舞台に
県内外の多様なプレイヤーが集まり、
産学官民連携や人々の交流が
積極的に行われ
富山のまちの核として
求心力と発信力を生むエリア

県庁周辺エリアの「ありたい姿」

具体的な取り組み①　アートでウェルビーイング

1-1　アートサイクリング＆トラムツアー

テーマ　街全体をアート空間に

内　容　徒歩、自転車、路面電車を活用し、アートや自然、歴史スポット、美術館を広範囲に巡ります。自転車を使うことで移動範囲が広がり、効率的な観光とアート鑑賞が可能になります。また、路面電車は観光と休憩を兼ねた移動手段としても楽しめます。

効　果　街全体が一つのアート空間になるような設計にすることで、回遊性を高め、来訪者や住民が**リラックスしながらアートを楽しめる**体験を提供します。

淡色地図データ（国土地理院）をもとに作成

街中のアート（イメージ）

自転車共同利用システム『アヴィレ』

路面電車・ライトレール

具体的な取り組み① アートでウェルビーイング

1-2 アート×防災

テーマ アートで考えアートでつなぐ安心の避難空間

内　容 近年の災害で顕著になっている日本の避難所の問題を、段ボールハウス作りワークショップなどを通じて考えます。また、街中や富山県防災危機管理センター、避難所となる施設に街の風景に溶け込むアートを取り入れ、日頃からアートを通して災害への意識を高めます。

効　果 アートの力を活用して防災を日常的な関心事に変え、住民の防災意識向上や地域コミュニティの結束を促進。**アートとデザインを通じて人々が安心して避難できる環境**を整えます。

【ワークショップ】

段ボールハウスを考えるワークショップ。プライベートの確保、寒さを凌ぐ作り、防音などの機能面のほか、子どもたちが自由に落書きできることで情緒の安定をはかったり、カラフルなデザインで避難する人の癒しにもなるハウスを老若男女で考える機会を持つ。

【街中アート】

【事例】 シブヤ・アロープロジェクト「Break through your heart./心突き破れ」
東京都渋谷区では災害時の帰宅困難者対策として、アート性あふれるデザインによる「矢印サイン」で一時避難所を示す取組みを展開。アート性あふれるデザインで、日頃から人々の注目を集めている。

【富山中央・富山東部・富山南部の避難場所】

広域避難所	城址公園含め8箇所
第１次避難所	旧総曲輪小学校体育館含め26箇所
第２次避難所	11箇所
第３次避難所	10箇所
その他避難所	4箇所

富山県防災危機管理センターもアートでラッピングし、地域の防災ランドマークとして機能（イメージ）

具体的な取り組み② アートで賑わい

2-1 富山アートブックフェア

テーマ クリエイティブなまちづくりの象徴

内　容 アートブックやアーティストブック、ZINEなどを製作する個人、グループ、企業がブースを持ち、来場者と直接交流しながら書籍の売買を行うイベントです。出展者は個人アーティストからアート系出版社、ギャラリー、書店まで多岐にわたり、多様な表現に触れる機会を提供しています。また、手頃な価格帯の書籍を扱うことで、アートに触れる入り口としても絶好の機会となっています。「GO FOR KOGEI」など関連性の高いイベントと併せて開催し、回遊性を持たせます。

効　果 富山の文化やアートに対する注目が高まり、**国内外からの観光客やアート関係者の訪問が増加**します。「アートと本のまち富山」というブランドが形成され、長期的に地域の観光資源や文化的な魅力が発信され続けます。富山の出版・印刷業界やアーティストにとって新たなビジネスの場となり、**アートやデザインに関する産業の成長を促します**。県外のアート関係者や出版社とのコラボレーションも活発化し、富山のアート・出版シーンの発展が期待されます。

【参考実績（アートフェア、アートイベント含む）】

東京アートブックフェア（東京）	来場者数／4日間で35,000人以上　出展者／約300組（2019年）
RENEW（福井）	来場者数／3日間で37,000人（2022年）　来場者の半数以上が20代・30代
大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ（新潟）	来場者数／39日間で233,709人（2024年）
瀬戸内国際芸術祭（岡山・香川）	来場者数／105日間で723,316人（2022年）
PARIS PHOTO（フランス）	来場者数／4日間で65,000人（2023年）　世界 NO.1の写真フェア

【事例】 東京アートブックフェア2023の様子

具体的な取り組み② アートで賑わい

2-2 水と光のアートフェスティバル

テーマ 水辺とアートの融合

内 容 県庁周辺の川や水辺を舞台にしたアートイベントを定期的に開催。インスタレーションアート※や、川上に浮かぶアートボート、夜には水上プロジェクションマッピング、秋～冬の松川のイルミネーションを楽しみます。また、アートマーケットやワークショップも展開します。

※現代美術の1つで、場所や空間全体を作品として表現するアート。空間全体が作品であるため、鑑賞者は作品を「鑑賞」するというより、作品に全身を囲まれて空間全体を「体験」するアートとなっています。

効 果 水辺とアートのコラボレーションで富山ならではの風景を演出し市民や観光客を魅了、**年間を通して周辺エリアの賑わいを創出します**。

【参考事例・イメージ】

【事例】 オハイオ州シンシナティで開催された「Blink 2019」での、光を使ったインスタレーションアート

【事例】 埼玉県飯能市宮沢湖・メッツァビレッジでの、チームラボ冬のイルミネーション

冬もイルミネーションで人出を創出(イメージ)

自然のなかで行われるアートマーケット(イメージ)

具体的な取り組み③ アートで活性

3-1 アート・ラボ TOYAMA

テーマ アートを通じて地域課題を解決

内 容 NHK跡地に、富山の自然、歴史、アートをテーマにした創造的実験スペースを設立。アーティストや大学や研究機関が連携し、地元企業の技術力やリソースを活用したアート作品の制作を行います。展示だけでなく、企業の製品開発や技術研究とアートを融合させたプロジェクトも展開し、アートを通じて地域課題解決を目指します。

カラフルなガラスパネルと幾何学模様の未来的なインテリアデザイン(イメージ)

効 果 地域の技術力や知識を広めつつ、**国内外から人材を引き込み、地域の課題解決・活性化**を図ります。

NHK跡地を利用

3-2 アート×テクノロジー・クリエイティブ・キャンプ

テーマ アートとテクノロジーの融合

内 容 3-1の「アート・ラボTOYAMA」でアートとテクノロジーの融合をテーマにした5～7日間のクリエイティブ・キャンプを行います。アーティストやクリエイター、地元大学生がチームを組み、企業が提供する技術やデバイス（AI、VR、ARなど）を使用し、新しい表現を模索しながら斬新なアート作品を作り上げます。キャンプ最終日には作品の発表会を行い、企業は新技術のプロモーション、アーティストは新しい作品の発表、学生は技術力向上の機会を得ることができます。

効 果 技術とアートの融合が富山の新たな魅力となり、企業の新製品開発やマーケティング、クリエイターの作品発表の場としても注目されるようになります。キャンプを通じた交流により、**将来的なコラボレーションやプロジェクトの発展、参加者の移住**が期待されます。

3Dデジタル彫刻とインタラクティブ・アート・インスタレーションを備えたモダンなVRアートギャラリー(イメージ)